

ラミネートボディ

シェクター及びムーンボディ材にはラミネート構造を持ったものが数種あります。

簡単に言ってしまうと異なる特性を持った材をハギ合わせて各材の特性を生かし、低域から高域までのより明確な音作りをさせたボディ材の事です。

その代表的なものはなんといってもメイプルトップ、マホガニーバックのラミネートボディです。(レスポールモデルなどたいへんポピュラーなラミネートです。)この構造を、シェクターとムーンではテレキャスタータイプのツインハンパッカー、ストラトキャスタータイプのツインハンパッカー、Pベースタイプ、PJタイプベースの各モデルに採用する事で、従来の単板材ボディでは作り得なかったワイドレンジで音の線が太い、タイトなサウンドを生み出しています。

トップ材に高域から中域、バック材に中域から低域を作り出させる構造の為、トップとバックそれぞれの材を

変える事で異なった音質特性を生み出すことが可能です。ムーンではメイプルトップ、マホガニーバックのラミネートに加え、シルバーハートトップ、マホガニーバックのラミネートシリーズがあり、メイプルをトップ材にした場合に比べ高域が少し荒めのトレブリーな音質を生みだしています。

シェクター&ムーンのラミネートボディは、ラミネート構造ならではの豊かな低域、粒立ちのよい中域、のびやかな高域の太い高域が得られます。コシのあるワイドレンジサウンドを作り出すにはラミネート構造でなければ非常に難しい事も確かなのです。

ソリッドボディが主流であるエレクトリックギター&ベースにおいて、新たな音の可能性を示すラミネートボディは楽器の音作りの原点が本部にあるという事の実証とも言えます。

プラスワンフレットネックシリーズ

実用新案出願中

ムーンのカスタムギター&ベースにマウントされたプラスワンフレットネック、ギターは22フレット、ベースは21フレットと従来のモデルより1フレット多い設計になっており、しかも独自な本部構造により、ネックをセットするにおいて、ボディ加工の必要がありません。あなたの現在お使いのネックを取りはずし、未加工にてセットできる訳です。

ずいぶん前から“もう1フレットあったら……”そんなプロミュージシャンの声に、ムーンが御答えしました。ちょっとした事なのですがこの1フレットの違いは大きいですよ。シェクターのスタッフも“グレイト・アイデ

ア!”と喜んでくれました。あなたのクリエイティブプレイに、必ずや新たなニュアンスを生み出す筈です。

プラスワンフレットネックは、ムーンのカスタムギター&ベースの魅力のひとつにもなっています。

これはムーンコーポレーションから1979年より発売されています。



また音質的な影響も見がせません。

指板のRがきつければきつて1、2弦、3、4弦、

5、6弦それぞれの音バランスが非常にとりにくい事になります。これは指

板センターの最もRのきついている部分を3、4弦が走り、1、2弦、5、6弦はそれぞれネックの両端を走っている訳ですから、当然指板の厚い部分と薄い部分では弦高のセッティングが異なります。すなわち3、4弦が1、2、5、6弦に比べブリッジの高さが高くなり必然的に弦にかかる張力は増し、逆に1、2と5、6弦の張力は低いということです。この状態では低域から高域までバランスのとれた音は望めません。

コードバランスの悪いギターは、ひじょうにプレイヤーを悩ませるということは皆さんすでに御承知だと思いますが、その原因のひとつにネックの指板Rまでが大きな影響を与えているということです。実際ミュージシャンの中でも、ジャズギタリストの方にコードバランスにかなり神経を使う人が多く、それが原因でストラトキャスタースタイル、テレキャスタースタイルのギターをバランスが悪い、プレイしづらいとする人が多いのですが、シェクター、ムーンのフラットフィンガーボードネックに交換する事で、それらの楽器の音質とテンションバランスは格段に向上いたします。

現代におけるギタープレイにおいて、プレイのしやすさと音質面に新たな完成度を持たせたギターネックたちに御注目いただきたいと思ひます。尚、これらのフラットフィンガーボードネックは、シェクターにおいては1978年より、ムーン製は1980年より製品化されております。



オイルフィニッシュ

シェクターボディに施されているオイルワックスフィニッシュと従来のポリウレタンもしくはラッカーの吹き付け塗装の違いについて説明いたします。

従来の吹き付け塗装は、塗料吹き付けによる塗膜でボディ及びネックを外気の湿度やキズなどから保護している訳なのですが、特にポリウレタンなどの塗膜が厚い塗料は本部の鳴りを殺してしまい音質も見ためにも冷たい感じを与えます。その種の楽器をお持ちの方で、塗装をはがす事で鳴りが良くなったという経験をお持ちの方もいらっしゃると思います。完全に塗膜で本部をかためてしまっている訳ですから、のびのびと本部が振動しないのはあたりまえです。かと言って未塗装のままでは楽器の大敵である湿気から保護できません。

そこで塗料を吹き付ける替りに植物性のオイルを本部にしみ込ませて油膜を作り、その油膜により外部の湿気から保護し、かつ木の鳴りを殺す事無く生き生きとした木の生の音をひき出す為に施されているのがオイルフィニッシュなのです。

オイルフィニッシュとはまず、加工されたボディ、ネックをボイル油などの植物油にレモンオイルを混入させたオイル槽の中に2、3時間漬け、それを数日間乾燥させるというひとつの行程をおよそ2週間～1ヶ月程繰り返すのです。

シェクター ボディ、ネック材の乾燥

材の音質特性のところでも各種材については説明いたしましたので、ここではシェクター製ボディ材の共通した優れた特長である材の乾燥について解説いたします。

シェクター製品における本部は、世界各国原産地からの良品質材のみをカリフォルニアのシェクターファクトリーにおいて自然乾燥され加工されているのですが、まず日本国内においての木材の乾燥とカリフォルニアという地域においての自然乾燥の違いについてお話ししましょう。

これはUSAのメーカーと比べた場合、日本国内のメーカーにおいて共通した問題点になっている事ですが、御存知の通り日本はアメリカ本土、特にカリフォルニア地域に比べ年間を通して非常に湿度が高い訳です。国内産の材を長期に渡り自然乾燥させたとしても、本部を未塗装でカリフォルニアあたりに持ち込むと(もちろん材により収縮率に差はありますが)ほとんどの材の外周形状がわずかに週間たらずで一回りも縮んでしまいます。

国内産のメイプル材ネックなどはフレットの両端が完全に手がひかかる程と出てきます。これはメイプル材がカリフォルニアの乾燥した気候の中で本部内の水分がぬけて収縮した為に起こることです。そのメイプルネックにしても国内である程度の乾燥期間もしくは乾燥室での強制乾燥期間をおいたもので、国内メーカーの楽器の平均的な乾燥状態の材を加工したものの訳ですから、カリフォルニアの気候と日本国内の乾燥状態の差が如実に表れた例ととらえてもよいのです。そしてその差は音質にも確実に表れてきます。まずそれはミュージシャンがよく口にする言葉で、音のぬけが良い悪いという点に表れます。音がこもってぬけない……よくミュージシャンから相談を受ける事です、木材の品質と共に乾燥状態の良いものはその材質が何んであれ音がこもらず前に出てくるものです。

乾燥しきっていない木材は、音がぬけないだけでなく加工され塗装した後も変化してきます。ある程度の水分が乾燥しない限り、木はその木取りと木目の状態に応じて変化するからです。ネックのねじれや指板の波打ちはその良い例です。

アメリカ本土においてもその乾燥期間に時間を費やさ

返すものです。ムーンでもシェクターと同じ行程でオイルフィニッシュを行なっておりますが、たいへん手間のかかるフィニッシュです。

オイルワックスフィニッシュがほどこざれているシェクターのボディ、ネックは眠られています。特にフィガーードメイプルなどはオイルフィニッシュではなく、ラッカー塗装で仕上げられています。これはオイルが、メイプルのような木の繊維を持った材にはなかなか浸透せず、オイルフィニッシュの後ある程度の乾燥期間をおいてもべつとした感じが消えないからです。またメイプルトップ、バックマホガニーなどのラミネートボディもラッカーフィニッシュ仕上げになっていますが、それ以外の各種ボディ材、ネック材はほとんどの場合オイルフィニッシュ仕上げでビルドアップされます。

しかしこのオイルフィニッシュの欠点は、外部の衝撃からの保護が出来ないという点です。そういった意味でバイオリンなどの古典楽器に施されたニスのはけ塗りと同様デリケートなものとして扱っていただきたいと思ひます。そのかわりオイルフィニッシュで仕上げられたボディ材、ネック材はそれぞれの材のもち味が生き生きと生きています。

ないと必ず製品に問題が生じます。更に材の種類に依り乾燥期間が違います。

シェクターのようにいろいろな特色を備えた数10種類もの異なる材を、完璧な状態で製品化できるのは、本部乾燥にたいへん適した気候に恵まれた自然環境をフルに生かし、それぞれの材を理想的な乾燥状態で製品化している為です。シェクターにおいて材の持ち味は心地良い音のぬけの良さを伴い最高の品質を備えるに至っています。

もちろん我々も、ムーン製品においてより長期に渡る乾燥を施すことにより、より乾燥状態の優れたボディ&ネックを製作しております。

音ぬけが悪い点でお悩みの方、それが以上のような点で問題になっている場合は、残念ながら乾燥状態の良いボディ、ネックに交換しきれない限りぬけの良さという事も事実なのです。

